

令和7年度 兵庫県立香住高等学校 学校評価及び学校関係者評価

～ 海と地域に学び、在りたい未来に貢献する香住高校 ～

1	教育方針	「真理を究め、責任を果し、敬愛を尽す」の校訓のもと、家庭・地域社会と連携して夢や志を育む教育を推進し、知・徳・体の調和した、こころ豊かで自立する人を育てる。
2	本年度の重点目標	(1) 個々の生徒に応じた学習指導を行い、「確かな学力」を育成する。 ア 基礎・基本の確実な定着と思考力・判断力・表現力を養う探究的な学びを推進し、「確かな学力」を身に付けさせる。 イ 地域資源を活用した特色ある教育活動を展開し、個別最適な学びと協働的な学びを充実させる。 (2) 達成感と自己有用感を育む教育を推進し、「自主・自立の精神」を養う。 ア 体験的な教育活動を積極的に推進し、自ら主体的に学び行動する意欲と態度、生涯設計に基づき進路決定できる能力を育成する。 イ 家庭や地域社会と連携した組織的・系統的なキャリア教育を充実させ、社会の担い手としての勤労観や社会に貢献する姿勢を育む。

(3) 人間的なふれあいと規律を重視した生徒指導を進め、「豊かな心と健やかな体」を育てる。 ア 基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を生徒自ら考え判断する取り組みを通じて、公共の精神や協調性を涵養する。 イ 地域や関係機関と連携して安全・安心な学校づくりを推進し、自他の生命を尊重する心や他者への思いやりの心を育む。 ウ 感染症の拡大による影響を配慮して、自己肯定感や当事者意識等の諸課題を改善する。 (4) 教職員の資質向上を図り、「互いに支え合い切磋琢磨する職場」づくりに努める。 ア 授業力を高めるために、授業研究や教職員研修をとおしてICTの効果的な活用を推進し、生徒の実態に応じた効果的な指導方法の工夫・改善を図る。 イ 校務・業務の効率化と情報化を推進するとともに、教職員相互の協力・協働体制を強化する。

評価は4段階で、4=できた、3=まずまずできた、2=あまりできなかった、1=できなかった

総合判定 A・・・4.0～3.5 B・・・3.4～3.0 C・・・2.9～2.5 D・・・2.4以下

分野	番号	実践目標	具体的取組（評価項目） / 今年度の成果
総務部	1	感染症対策予防の推進と安全・安心な学校環境整備	①感染症予防に努め、適切な学校生活および行事を実施する。 ②清掃やゴミ分別の徹底により日頃より学習環境を整え、定期的な安全施設設備の点検を行い、生徒の安全に関する意識啓発に取り組む。 ③関係機関との連携により、本校に適した校内防災体制の充実を図り、防災意識を高める訓練を実施し各自が正しい判断ができる準備を図る。 【取組成果】 ・徐々に新型コロナウイルス感染症に対する恐怖心や危機感が低下する中、インフルエンザやマイコプラズマ等の感染症も併発するようになった。校内は感染拡大が起こってはいないが、常に危機感をもって準備しておかなければならないと感じる。 ・生活環境を整えるように心がけているが、すべての要望に対応できていない。事務室共に改善行く必要がある。学校安全点検は、複数の違った視点から点検を行っているが、点検のポイントなどは国が示すガイドラインなどの活用ができていない。 ・防災避難訓練は、いかに実践的、効果的なものにするかの課題を持ちながら毎年異なった視点で実施し、自ら考え行動する力を育てることに重点を置く。学校内の課題を整理し、対策マニュアルを改善していきたい。
	2	地域貢献活動の推進と香住高校の魅力発信	①地域諸施設と連携した文化活動や環境学習、ふるさとづくりに貢献する。 ②行事計画に基づき広報活動を積極的にを行い、ホームページを随時更新する。平均週1回以上を目指す。 ③学校案内パンフレットを刷新するなど、学校の魅力を校外へ発信する。 ④オープン・ハイスクールの内容の充実を図り、入学希望者の増加に努める。 【取組成果】 ・月に1回の香美町高校支援連絡会に参加し、町および村岡高校と意見を交換しながら学校の魅力発信に取り組んでいる。 ・広報活動として、各行事について報道機関への取材依頼、できるだけ多くHPを更新している。 ・本年度も、大きく学校パンフレットを改訂し公開している。 ・オープン・ハイスクールは多くの先生の協力のもと、新たな取り組みも取り入れている。参加中学生への評価は高いが、入学希望に繋げる方法を模索している。
保健部	3	生徒の健康増進	①状況を踏まえ、授業確保をしつつ、短時間で円滑な健康診断等を行い、本校生徒の特徴を理解し、生徒の健康増進と保健衛生の充実を図る。 ②感染症や事故防止の啓発を積極的に行い、状況に応じた生徒連絡、職員連絡を実施する。 ③適切な対応を施し熱中症予防に努める。 【取組成果】 ・健康診断の計画及び円滑な実施を行い、関係機関と連携した。 ・校内保健委員と感染症対策、熱中症対策を考え全校集会での発表や校内掲示を行うとともに熱中症予防講習会を実施した。
	4	生徒の内面的サポート体制の充実	①キャンパスカウンセラーによる定期的なカウンセリングを行い、生徒の内面理解を深める努力と情報の共有を図る。 ②通級指導も含め支援を要する生徒のための関係機関と連携し、校内サポート会議の開催により生徒情報と指導方法の共通理解を図る。 ③多様な生徒を理解し、適切な指導をするため職員のスキルアップに努める。 【取組成果】 ・校内・寮内での教育相談の確立を進めた。 ・関係機関やサポート会議との情報交換を行い、支援体制の充実を図った。 ・保健教育講演会、職員研修・サポート会議の実施を進めた。
教務部	5	授業の改善	①学科、教科、学年と連携した時間割を作成し、スムーズな運営に努める。 ②公開授業を実施、授業者、参観者の授業質の向上、改善を図る。 ③成績不良者の指導を毎学期ごとに実施する。 【取組成果】 ①時間割に関しては行事、要望等をふまえ滞りなく作成、運営することができた。 ②2回の研究授業週間を実施し7教科8名の教員で研究授業を実施し、有意義な協議をすることができた。 ③成績不良者が1・2学期は学期欠点の複数ある成績不良者に対して3者懇談を実施した。
	6	教育課程の編成と実施	①令和8年度実施・入学生教育課程作成を行う。 ②地域や生徒のニーズ、学校の現状を加味した教育課程を編成する。 【取組成果】 ①令和8年度実施、令和8年度入学生教育課程編成は教育課程委員会を経て作成することができた。 ②地域のコースや学校の現状を考慮しての編成は引き続き課題である。
	7	「総合的な探究の時間」の充実を図る。学年を通して系統的な学習計画の立案と発展的な教材作成を支援する。	①香住高校における「総合的な探究の時間」の体系の確立を図る。 ②KHS company projectとし、1学年は探究活動に取り組むための基礎作り、2学年は地域に学び地域に貢献する1年間、3学年は自分の実践を進路実現に生かす1年間と位置づけ、自ら課題を設定し、解決する力を養う。 ③各学年における活動の成果を発表・報告する機会を設ける。 【取組成果】 ①②年間を通して1学年は探究の基礎とその発表、2学年からは事業部ごとの活動を展開した。 ③学校発表会での発表を予定している。

評価	総合判定	学校関係者評価	次年度への取り組みと改善策
3.0	B	国が示すガイドラインの点検ポイントが活用出来ていない要因は何ですか。相違があれば安全点検上、問題が生じるのでしょうか。 オープン・ハイスクール参加者は、香住高校の様子（将来性、生活して力が伸ばせるか）などの情報を得るために参加していると思います。参加して情報が良くなかったから入学希望者が少なかったわけですので、その原因を見つけ、対策・改善してみてもどうでしょうか。 オープン・ハイスクールへの参加中学生の評価が高いことが、入学希望者増加に繋がればいいですが。	・今後も継続して感染症の状況を把握し、適切に学校行事等の運営等に努める。 ・本校の現状に即した防災体制の変更を行う。自ら考え行動できる力を養う。 ・学校安全点検や掃除用具等の管理を行い、学校安全ポータルサイト等を活用し、より安全な環境づくりに努める。 ・ホームページや広報活動をより充実した魅力の情報発信を行う。 ・オープン・ハイスクールの充実を図り、中学生に本校の魅力を伝える。
3.2	B	寮生の教育相談を一層進めてください。 生徒のサポートを行う上で、支援体制の充実が図られたことは良かったと思う。	・生徒の健康問題を教職員、生徒と共に対応・改善できるよう努める。 ・特別支援については、他者理解を中心に集団生活における対応力を高める必要がある。また、職員も多様な生徒の特性を理解し、効果的な教育活動、サポートに結びつけるようにスキルを高めていきたい。 ・定期的に、外部講師を招いての保健教育をすすめる。
3.3	B		
3.2	B	成績不良者に対するサポートで3者懇談の結果。改善・効果は出ているのでしょうか。 他の先生の授業を見ることで、自分の授業を改善するため、研究授業を一層進めてください。	・授業改善では引き続き研究授業を実施し、急速に変化する社会に対応できるよう教員側も研鑽に努めたい。また、効果的なICTの活用などがしやすい学習環境の改善も行いたい。 ・成績不良者や欠席の多い生徒に対して、3者面談を実施したが人数が非常に多い。次年度は根本的な学習に向かう姿勢についての指導も学年等と連携して取り組みたい。 ・教育課程では課題が多く、教科や科の要望や学校の現状などをすり合わせれるように協議しより良いものができるように作成していきたい。 ・採点や成績処理など業務の簡素化、不必要な業務の削減等を積極的に実施したい。 ・「総合的な探究の時間」の活動や発表会など定着しつつあるが、改善すべき点も多い。教員間や地域、カリキュラムなど多くの点で調整していきたい。
3.0	B		

分野	番号	実践目標	具体的取組（評価項目） / 今年度の成果	評価	総合判定	学校関係者評価	次年度への取り組みと改善策
生徒指導部	8	規範意識の向上 安全・安心な学校づくり	①全職員の共通理解のもと規範意識を向上させる指導を行い「ダメなものダメ」という意識を徹底する。また、家庭や地域、PTA、関係機関と連携し、全ての教育活動においてルールや規則を守る意識を持たせる。 ②思いやりの心を育て、いじめや暴力のない校風をつくる。 ③交通ルールを遵守させ、正しい交通マナーを身につけさせる。 ④タブレット・スマートフォン等の情報機器への正しい知識を身につけさせる。特にSNSを扱うために重要な情報リテラシーを身につけさせる。 ⑤「安全はすべてにおいて優先する」という意識を持たせる。 【取組成果】 ①春と秋に交通安全立ち番をPTAと協力して行った。毎朝の立ち番、毎月の服装頭髪検査をとおして、服装や頭髪の指導を行い、ルールや規則を守る意識を持たせるよう尽力した。 ②毎月の情報交換会、各学期のいじめアンケート、寮アンケート、個人面談を実施し、各学年と協力していじめの早期発見と未然防止に努めた。 ③香住自動車教習所の協力のもと、自転車免許の交付のために講義と実技を行った。道路交通法の改定に関するポスターの掲示、告知、資料の配布を行い、交通ルールやマナーの意識向上に努めた。 ④タブレットに関する規定を掲示することによって、情報機器の正しい利用を促した。学校祭におけるスマートフォンのルールを見直した。 ⑤上記の取組をとおして、安全はすべてにおいて優先するという意識を向上させるよう努めた。	3.1	B	自分ファーストを押し進めると自己中心となり、他人の意見を否定し、相手に対する思いやりや痛みを感じなくなる。コミュニケーションの時間を大切に、感情の醸成を育ててほしい。 道交法を学ぶことは、将来運転免許取得に向け、社会のルールを身につける上で良い取組と思う。 SNS等はフェイク情報が拡散する社会となっているが、個人で偏った情報をうのみにすることなく、色々な情報を把握し、その中で考え、判断する力を身につけてほしい。 いじめやかからかいのない落ち着いた学校になるよう教員のアンテナをさらに高くし、早期に発見するようにしてください。	「ダメなものダメ」という規範意識を持たせるために適宜声掛けを行ってきたつもりではあるが、自分に言い訳をしてルールを守ろうとしない生徒もいて、声掛けは後を絶たないことが現状である。教職員によってはまだ認識が曖昧なところがあり、注意する人と注意しない人もいることが今後の課題でもある。生徒指導部が主導となり、全体の共通理解のもと、同じ指導を行えることが理想である。 生徒主体の活動を増やし、自主性を育む取組をしたいと思うが、生徒に意見を聞いても指示待ちの状態が多くある。生徒指導部側でも生徒自身が自発的に意見をいえる環境や状況を構築するべきではあるが、学年や各部署、教科担当とも連携を取り、普段から生徒の自主性を育む指導を行っていきたい。
	9	生徒活動の活性化	①生徒会、ホームルーム、部活動を活性化し、主体的に豊かな学校生活を送れるようにする。 ②あらゆる学校行事においてリーダーシップを発揮させ、より良い香住高校の原動力となる活動を行い、地域貢献や学校間連携を積極的に行う。 ③香住高校生としての誇りと自覚、自身を持たせ、マナーやモラルの向上を図る。 【取組成果】 ①生徒会のメンバーが主体的に行動できるように支援を行った。部活動活性化のために、部室の状況を調査し、整備の依頼を行った。 ②学校祭においては生徒発案の企画をいくつか実施し、生徒主体の学校行事となるように支援した。花いっぱい運動を実施し、他の学校との連携を深めた。 ③マナーアップホームルーム、マナーアップ集会を実施し、生徒自身が意識してマナーやモラルの向上を自覚するよう促した。	3.1	B		
進路指導部	10	進路情報・資料を有効活用し、指導の充実を図る。	①オンライン上での求人票管理を行うことで、生徒個人の端末から求人票の閲覧を可能にする。 ②進路指導室の出願環境の整備を図る。 ③指定校推薦（進学）一覧のデータ更新および閲覧方法の整備 ④キャリアパスポートを活用し、活動データの蓄積を行うと同時に、勤労観の醸成を図る。 ⑤進路通信を定期発行し、進路決定や進路実現のきっかけ作りを仕掛ける。 【取組成果】 ①昨年と手法を若干変え、業務の簡素化を図ったうえで、求人データのデータベース化を行った。 ②環境は整っていたが、生徒の活用をつまやく促進できなかった。 ③一覧化し、生徒が確認・理解しやすい工夫を行った。 ④行事や学期の締めくくりといった節目を活用し、活動データの管理と蓄積を行った。 ⑤発行部数や情報の更新頻度は満足いくものではなかった。	3.0	B	生徒への進路情報提供の促進不備については、情報収集のやり方について生徒からの聞き取りも必要ではないでしょうか。 進路通信に全校生に配布するなどして、生徒の進路意識をさらに高めてください。	
	11	進路指導方法の研究	①新課程入試に対する情報収集を行い、適切な進路指導を行う。 ②進路の手引きを作成し、進路に関する情報や進路決定の流れを可視化する。 ③卒業生に向けてのアプローチ、情報収集を行い、高校卒業後のキャリアプランニング方法を生徒に還元する。 【取組成果】 ①説明会や研修会に参加し、入試のトレンドや傾向に関する情報を収集した。 ②手引きの内容を精査し、新たにアップデートした内容を冊子化し、生徒に配布した。 ③年間を通してうまくこの事業に取り組むことができなかった。	3.1	B		
海洋科学科	12	魅力のある授業、実習の実施	①ICTの活用等を通して生徒が主体的に学ぶ力を育成する。 ②生徒の進路実現に即した授業、実習を実施する。 【取組成果】 ①外部の水産、船舶関連機関と連携した実習を実施し、生徒の進路選択に役立つ授業、実習を実施した。 ②一人一台の端末を積極的に活用し、実習等で主体的に利用する生徒が増えた。	3.3	B	水産関連機関と連携しながらの専門の実習は、とても大切だと思います。 主体的に授業、実習に取り組む生徒が増えたということは、生徒たちにとって学びたい授業が実施されたのだろう。 県内唯一の（水産高校）海洋科学科で、遠方より希望をもって入学してくる生徒のためにも、その期待に応えてほしい。	今年度に継続して各コースでの対外的な取り組みの充実や実運協主管校等の大きな行事に向けての準備等を早い段階から準備していききたい。また、生徒募集に向けて、オープンハイスクールの見直し等、中学生により水産の魅力が伝わるような取り組みのさらなる充実を図りたい。
	13	対外的な行事を通して、学習活動の活性化を図る。	①対外的な行事の選択と集中について検討し、生徒が日頃の学習の成果を発揮できる行事にはより重点をおいて取り組む。 ②海洋科学科の特色ある取組をPRし、生徒募集につなげる。 ③各種関連機関との連携を密にし、より現場に即した実践的な授業、実習を実施する。 【取組成果】 ①対外的な行事は選択と集中を行いながら、より教育的な効果の高い行事を積極的に実施することができた。 ②オープンハイスクールの実習内容を一部変更することでより海洋科学科の魅力を伝えることができたので、今後も内容の充実を図っていききたい。 ③県内唯一の水産が学べる高校として各関連機関から多大な協力をいただき、連携しながら様々な教育的効果を挙げることができた。	3.3	B		
3学年	14	個別の進路実現に向けた進路指導と学習指導を行う。	①生徒、保護者、担任（学校）と連携して個々に合った進路を実現する。 ②放課後、休業中の進学補習を実施する。 ③BYODを活用し、授業中、授業外の各連絡等のタブレット利用を充実させる。 【取組成果】 ①適宜三者懇談会を実施し、生徒の希望および適性の確認、保護者の意向の把握、学校からの情報提供と助言を行った。これらの協議を通じて三者間の共通理解を図り、進路決定へとつなげた。 ②放課後および休業中に補習計画を策定し、生徒の学習状況等に応じた個別指導を実施した。これにより、個々の課題に即した効果的な補習を展開することができた。 ③授業外でもタブレットを活用したが、まだ授業での実施が充実していない科目もある。	3.3	B	進路未決定者に対し、時間にとらわれることなく、本人が納得のいく成果が出るよう、サポートをお願いします。 放課後や長期休業中の補習はとても良いことなので、さらに進めていってください。 個別に学習指導を実施し、個々にその課題の効果があつたことは良かった。	生徒の進路意識が全体的に低く、個々の準備の遅れが目立つ。進路ガイダンスや進路フィールドワークを通じて多くの情報を提供しているものの、生徒が情報を十分に整理・理解できていない。その結果、「何が必要で、今後どのような行動を取るべきか」を主体的に把握できていない現状がある。今後は、情報提供型の指導から、生徒が必要な情報を取捨選択し、自ら行動につなげられるようなアプローチへと指導方法を再検討する必要がある。
	15	自立した学校生活を心掛け、他者への思いやりを持ち、社会へ適応できる人材を育てる。	①野外活動、学校祭を通して仲間との協調性を高め、達成感を得る。 ②卒業時に生徒全員が後悔のないような生活ができるように学年一体となって取り組む。 ③一般常識を身につけ、社会へ適応できるように適切な指導を行う。 【取組成果】 ①4月に料理旅館「いづつや」を訪問し、井上総料理長より日本料理における食事作法、歴史的背景、四季を尊重する姿勢の重要性について講義を受けた。また、9月には文化祭および体育祭を実施し、行事への主体的な参加を通して仲間との協調性を高め、達成感を得ることができた。 ②現在、進路未決定者が複数名いること、まだ卒業まで日数があることにより、まだ成果は出ていない。 ③面接指導をとおして、礼法や言葉遣いをはじめ、社会生活に求められる基本的な所作について指導を行った。また、12月にはビジネスマナー、保険、および金銭管理に関する出前講座を実施予定であり、社会理解を深める機会として計画している。	3.1	B		

分野	番号	実践目標	具体的取組（評価項目） / 今年度の成果	評価	総合判定	学校関係者評価	次年度への取り組みと改善策
2学年	16	基本的な生活習慣の確立や良好な人間関係を構築する能力を育成し、社会の一員として求められる資質の礎を築かせる。	①修学旅行やホームルーム活動を中心に生徒間のコミュニケーションを促進し、他を認める豊かな心を養い、積極的に行動できる精神を育む。 ②学校祭や学校行事をとおして達成感、成就感を味わい、自主自立の精神を培う。 ③進路ガイダンスや進路HR等を実施することで、進路情報を収集できる機会の充実を図り、学校と社会のつながりを理解させ、進路実現に向けての学びを推進する。 【取組成果】 ①修学旅行の期間中や事前および事後指導をとおして他を理解し、自身の言動について適切に判断できる能力が昨年より高まった。 ②学校祭では、クラスの意見が食い違う場面もあったが、お互いの考えを聞き入れるなどして相互理解を図り、短い準備期間の中、協力して取り組むことができた。また、体育祭では精一杯プレーすることや応援することの大切さ、応援されることのありがたさを身をもって知ることができた。各行事を積み重ねることで、達成感や自主自立の精神を高めることができた。 ③昨年度のガイダンスを更に発展させ、より個々の進路希望に即したガイダンスを実施することができた。また、地元企業による進路説明会を実施し、身近にある企業のことや様々な職種についての知識を深めることができ、社会の一員として活躍する意味について学ぶことができた。進路HRの中で、自身の振り返りや作文指導を行い、進路意識の高揚に努めた。	3.0	B	コミュニケーションを促進する中で、風通しのよい教育環境を築き、風土の醸成に繋がる取組を希望します。 地元企業による進路説明会は、地域の産業の様子を知ることができて、とても良い企画であると思います。	本年度は、修学旅行、学校祭、長期航海、学年レクリエーション等とおして、相互理解を深めることや協調性・チーム力の育成を図ってきたが、集団の一員としての個の在り方や団結力、相手の思いを押し量る力等の点において、昨年度より成長は見られるものの目標を達成できたとは言えない。来年度は最高学年、進路実現の学年となる。3年間の集大成としての学年であることや自身の将来を決定する大切な1年になることを自覚し、社会人としての資質や上級学校での学習に必要な基礎学力の定着を図り、社会の中においても自己を確立する能力の礎を育成したい。 来年度の目標達成に向けて、各専門部や科等および保護者との連絡・連携を一層密に取りながら、引き続き生徒一人ひとりの成長と全体や相手が個を支援し、チーム力で課題解決できるような雰囲気醸成する。最終的に全員が進路実現を果たし、それぞれの生徒が香住高校での学びに達成感を感じ、誇りをもって卒業できるよう取り組んでいきたい。
	17	学校集団の中核として、リーダーシップを育成する。	①生徒会活動、学校祭などにおいてリーダーとしての役割を経験させる。 ②部活動の中核として自主性と責任ある態度を育成する。 【取組成果】 ①生徒会活動の核となる学年であることを理解し、試行錯誤ではあるが意欲的に活動に取り組む様子が見られる。立場は異なるが、それぞれの生徒が集団の代表者として前向きに取り組む姿勢がより多くなった。 ②3年生が部活動を引退し、2年生が部をリードする立場になり、部の運営について苦労することもあったが、顧問等の指導を受け自主性と責任感が高まってきた。	3.0	B		
1学年	18	学習習慣の確立と基礎力の定着を目指した学習指導を行い、自己を見つめ進路目標を見いだせる力を養う。	①週末課題、小テストを実施し、基礎学力の強化を図る。 ②補習授業や模擬試験を計画・実施し、学習の定着を図る。 ③進路HRや進路ガイダンスを実施し、自己の能力を評価し、進路目標を見いだす。 【取組成果】 ①週末課題、小テストについては計画的に実施することができた。しかし、時間の経過とともに、取り組みない生徒が目立ってくる。小テスト実施後の補充や再テストなども各教科で実施してもらっているが、それでも取り組みが思わしくない生徒がいる。取り組みの悪い生徒に対して学習に向かわせる工夫がさらに必要である。 ②考査前には指名補習、2学期期末考査前には補習に加えて、指名制の居残り学習の機会を設けた。長期休業中は進学補習を実施した。 ③職業を知るための進路ガイダンスや進路別の講話、また、進路選択についてのHRを実施した。自分の進路について明確になってきている生徒が増えつつある。	3.0	B	新学年のスタートダッシュで躓くと徐々に悪影響を生じるので、取りこぼしのない指導のフォローを希望します。 週末課題や小テストは、積み重ねによる学力向上のため、効果のある取組であると思います。 長期休業中の進学補習をさらに進めてください。	学習面、生活面のどちらにおいても、主体性に欠ける生徒が多いのが実情である。今後、社会へ出て行く準備として「自分を律する」力を身につけさせたい。学年全体的にもの考え方や行動に幼さが目立つ。学級活動や行事などを通して、成長を促したい。 学習面では週末課題、小テスト、補習などは継続していくが、進学希望者の学力向上にも力を入れたい。また、学習意欲の低い生徒に向けて、学習習慣の定着にむけた取り組みを考えたい。 生活面では生徒同士の相互理解が薄いように感じられる。共生HRや人権HRなども継続して行いたい。
	19	学校生活をおとして、自尊感情を高め、相互理解を深めながら、自己の在り方を考え、将来に対する目標をもった学校生活を送らせる。	①HR活動、学校行事を通し、思いやりのある心を育み、自己の役割を果たす態度を身につける。 ②学級活動全般を通し、自律した生活態度を身につけさせ、規範意識の向上を図る。 【取組成果】 ①各行事を通し、役割を明確にしたり、生徒同士が協力し合える体制を整えたりした。お互いを尊重し合う人間関係を築けない生徒もおり、クラス委員の決め方、席替えなど今後いろいろな配慮が必要になってくと思う。 ②自律することが難しい生徒や規範意識の薄い生徒も目立つ。学年集会や共生HR、担任以外の先生からの講話など生徒に考えさせる機会を多く設けた。	3.0	B		
舎監部	20	若潮寮に在籍する寮生の生活を支援し、海洋科学科での成長を促進するための生活基盤を構築する。	①日直、宿直などの舎監業務を行う中で、寮内巡視や生徒支援・学習支援を行う。 ②点呼(朝・夕)や消灯巡視等により寮内人員の確認を行う。 ③生徒のケガや病気、感染症に対応する。 ④保護者対応や学級担任・養護教諭などの関係職員と情報共有を行う。 ⑤食事指導や就寝指導を行う。 ⑥災害時における寮生の安全を確保する。 【取組成果】 ①舎監業務に携わる先生方の協力のおかげで、寮生の人員確認や生活支援を行うことができた。 ②インフルエンザの予防接種の実施や救護室を活用した隔離処置など、感染症対策をすることで大きな集団感染が起きずすんだ。 ③学年や生徒指導部、養護教諭等と連携し、情報を共有しながら諸課題に取り組めた。	3.0	B	寮生について夜間、突発的な体調不良者への管理体制は充実しているのではないか。 狭い空間での多人数での生活であるため、ストレスがたまったり、人間関係に苦悩する生徒も多いので、カウンセリング体制などの心のサポートをしながら、県教委からの支援を引き出し、舎監の先生と協力しながら生徒の指導にあたってください。 舎監の先生の負担感をやわらげる配慮を切に願います。 インフルエンザ、コロナ等の感染症が多い中、生活支援に携われた先生方、お疲れ様でした。	寮生の規範意識の向上のため、寮則だけではなく一般的な生活ルールやマナー、生活の知恵などを周知し、自立しながらも共同生活を送れるような寮生を育成していきたい。 舎監に入る先生方が、舎監業務や生徒情報について共通認識を持ちやすくするため、情報共有に関する取り組みを強化していきたい。 巡回頻度を増加させ細やかな巡視体制を構築していく一方で、舎監の業務負担を軽減できるような仕組みを構築していきたい。
事務部	21	生徒、教職員が安心安全に学校生活を送れるよう環境整備を行う。	生徒へ快適な学習環境を提供し、教職員の職場環境の改善に取り組む。 建物(特に主体構造、屋根、外壁)、設備、備品の老朽化へ対応する。 ※既定予算に限りはあるが、県教委へ積極的に要求を行い、予算を確保する。 【取組成果(主なもの)】 生徒の学習環境の整備：作法室エアコン整備、視聴覚室床模様替え、実習棟集水槽取替え、体育館トイレ壁タイル・生徒昇降口階段タイル補修 作法室排水設備改修については、現在、県教委へ調査費用の予算要求をしている段階 進路指導室エアコン故障については、県教委へ予算要求を行う。 特別教室棟Wi-Fi不具合改善については、現在、業者依頼中 教職員の福利厚生：香住教職員公舎 屋上・外壁他改修工事【A棟、C棟、D棟】総工費2,618万円	3.3	B	県内で唯一の海洋科学科は地場産業の担い手を育成する場として出願希望者は多いが、若潮寮のキャバが少なく、充実した設備の確保を検討願います。	生徒、教職員が安心安全に学校生活を送れるよう環境整備を行うことは、事務室の最優先課題と認識し、次年度も継続して取り組む。 テスコト横の新寄宿舎建設時の堆積残土(盛土)については、今年度 旧矢田橋撤去工事作業場所の埋立て用として引き取りを新温泉土木事務所へ協議したが、土質が合わない等の理由により不可であった。 盛土搬出は、長年の懸案であり、各所からの情報収集に努め着手したい。
	22	本校の防災機能を高める。	本校体育館は、香美町の災害時指定避難所となっている。避難所開設時において被災者を受け入れるに当たり、空調設備を整備(特に夏季の熱中症予防)し、また炊き出し用のガスコックを設置するなど、香美町と連携しながら地域防災拠点としての機能を高める。 【取組成果】 体育館エアコン整備工事11月末の完成予定【総工費 約5,800万円】 稼働燃料：プロパンガス、室内機14台(7台×2列)、室外機4台、操作リモコンは体育教官室に設置	3.2	B		体育館のエアコン整備は、災害時の避難所運営時の熱中症対策、冬季暖房といった観点で整備されているが、これ以外の使用については校内でルールを定める必要がある。他校の事例であるが、光熱費の面で、全学年又は学年単位で使用し、気温が一定以上に達した場合に稼働させている学校や、部活動だけの使用は認めていない学校など様々である。 R8.2.13神戸新聞によると、来年度 本県の予算編成の方針として、県立校の光熱費について「使え控えをさせないための助成」が挙げられており、夏季の熱中症対策へのエアコン使用について弾力的な運用が期待できる。

【全体を通して学校評議員の意見】

実習船に多大の経費がかかると思えますが、寄宿舎もあり、運営には大変困難なため、心のサポートなどのカウンセリング(生徒・教職員・船員)補助の要求を継続して何度も実施(取組)してください。

寄宿舎を希望する入学生は、全員入寮させる体制を作ってください。(下宿生を日常的に生活指導することは困難であるため。)

総合判定の中でAに近いもの(A)が1つあればいいですね。(失礼なことを言って申し訳ありません。)